

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.165
2022/3/31

目 次

理事会報告.....	1
日本中東学会第 38 回年次大会参加申し込み方法、および暫定プログラム.....	3
『日本中東学会 (AJAMES)』編集委員会報告.....	8
GEAHSS 運営会議および地域研究学会連絡協議会総会に関する報告.....	9
寄贈図書.....	10
会員の異動.....	11
事務局より.....	12
編集後記.....	12

理事会報告

【2021 年度第 3 回理事会報告】

日時：2021 年 12 月 14 日（火）19:00～21:06

オンライン開催

出席者：保坂修司、堀抜功二、青山弘之、秋葉淳、江川ひかり、大川真由子、粕谷元、菊地達也、後藤絵美、佐藤健太郎、錦田愛子、森本一夫、福田義昭、横田貴之

欠席者：岩崎えり奈（会長に委任）、勝沼聡（事務局長に委任）、末近浩太（会長に委

任)

[報告事項]

1. 第 38 回年次大会進捗状況について報告があった。
2. AJAMES 編集について報告と説明があった。
3. 学会ホームページ改修の進捗状況について報告があった。

[審議事項]

1. AJAMES (38-1、38-2 号) 編集計画を承認した。また、以下の点について、メール稟議で審議することを確認した。
 - 外国人編集委員の交代と合わせた審査・編集体制強化 (国際情報発信強化)
 - J-Stage でのバックナンバーの公開作業 (36-2 号以降)
 - 原稿執筆要領・内規・検討票の改訂
 - 投稿規程の改訂 (著作権、プレプリント原稿投稿への対応について記載)
2. 第 38 回年次大会の総会をオンラインにて実施することを承認した。
3. AJAMES バックナンバーの管理・整理の方針について承認した。
4. 日本中東学会事務局の過去資料の整理の方針について承認した。
5. 会員動向について、1 名の新規入会申し込みを承認した。

(青山弘之 ニュースレター・書記担当理事)

【メール審議 (2021 年 12 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)】

1. 2021 年 12 月 21 日 第 38 回年次大会の開催時間に関して
大会初日に開催される総会の時間を 13 時から開催することに関して、メールでの稟議の結果、12 月 24 日にこれを承認した。
2. 2022 年 1 月 11 日 新規入会申し込みについて
 - 3 名から新規入会希望があり、メールでの稟議の結果、1 月 13 日にこれを承認した。
3. 2022 年 2 月 16 日 新規入会申し込みについて
 - 5 名から新規入会希望があり、メールでの稟議の結果、2 月 16 日にこれを承認した。
4. 2021 年 3 月 8 日 新規入会申し込みについて
 - 3 名から新規入会希望があり、メールでの稟議の結果、3 月 10 日にこれを承認した。

(青山弘之 ニュースレター・書記担当理事)

日本中東学会第 38 回年次大会参加申し込み方法、および暫定プログラム

日本中東学会第 38 回年次大会は、2022 年 5 月 14 日（土）および 15（日）に開催されます（早稲田大学文学部中東・イスラーム研究コースとの共催）。大会初日には総会と公開講演会、2 日目には研究発表（企画セッション含む）を行います。新型コロナウイルスの影響に鑑み、2 日目の研究発表（企画セッションを含む）は、**会場での直接対面方式とオンライン方式を併用したハイフレックス方式**を予定しています。すなわち、発表者の皆様は会場（早稲田大学戸山キャンパス）へお越しいただいても、オンラインで参加いただいても構いません。同じく発表者以外で大会に参加される皆様は、会場へ直接お越しいただいても、オンラインでご参加いただいても構いません。なお、新型コロナウイルスの感染状況次第では、全面的にオンラインへ移行することも考えられますので、あらかじめこの点をご容赦ください。では、新しくなった早大戸山キャンパスでお目にかかれるよう祈念しています。

1. 参加申し込みについて

日本中東学会第 38 回年次大会への参加には、事前申し込みが必要です。当日の会場での参加申し込みや大会参加料の支払いは受け付けないことになっておりますので、事前の参加申し込みと大会参加料のお振込みをお願い致します。

なお、事前申し込みは、**4 月 30 日（土）**までとさせていただきます。追って学会メーリングリストにて登録フォームを送付いたしますので、そちらにご登録のうえ、**大会参加費 1000 円**を以下の口座へお振り込み下さい。

みずほ銀行 高田馬場支店 (064) 普通 4182010

名義：日本中東学会第 38 回年次大会実行委員会

なお、登録フォームへのご記入にあたっては、来場するかオンライン参加をするか選択していただくことが必要です。登録段階では来場をご選択しておいていただき、当日にオンラインに変更していただくことも可能ですので、現段階でのご予定が不透明な場合は、来場をご選択ください。

また、ハイフレックスという方式の都合上、2 日目の研究発表ではレジュメを会場で配布せず、大会用ポータルサイトにアップロードします。ご来場される皆様には、会場における無線 LAN への接続方法を当日会場でご案内しますので、各自 PC をご持参くださるようお願い致します。また、レジュメは当日に無線 LAN へアクセスして参照することも可能ですが、トラブル回避のためなるべく事前に大会ポータルサイトからダウンロードしておいていただければ幸いです。

2. 託児費用の補助について

大会 1 日目、2 日目ともに、託児サービスへの費用補助を予定しております。お子

様一人につき一日あたり 5000 円を上限に費用を補助いたします。ご利用を希望される方は、追って大会メーリングリストにて登録フォームを送付いたしますので、5 月 7 日（土）までにご記入のうえ、大会終了後 1 週間以内に利用の詳細と利用金額がわかるものをメールにてご送付ください。

3. 日本中東学会第 38 回年次大会暫定プログラム（2022 年 3 月 18 日現在）

日時

2022 年 5 月 14 日（土）・15 日（日）

2022 年 5 月 14 日（土）：オンライン

2022 年 5 月 15 日（日）：オンラインと対面を併用したハイフレックス方式

会場（15 日に対面方式での参加をご希望の場合）

早稲田大学戸山キャンパス

第 1 日目：2022 年 5 月 14 日（土） ※全て Zoom ウェビナーを使用（オンライン）

13:00～14:00 日本中東学会総会

17:00～19:00 公開講演会

[公開講演会]（英語／日本語同時通訳付・オンライン）

The Middle East...and beyond: Writing In/Outside the Middle East (A Dialogue with Amin Maalouf)

『中東を越えて：中東の内／外で書く』（アミン・マアルーフ氏との対話）

アミン・マアルーフ氏は『アラブから見た十字軍』以来、日本でも多くの読者を獲得してきました。その後に『サマルカンド年代記』『レオ・アフリカヌスの生涯』『光の庭：小説 マニの生涯』と、歴史小説の分野においても深みのある作品を生み出し、『タニオスの岩』ではゴンクール賞も受賞しています。レバノン出身の自身のルーツも他の作品で掘り下げられており、さらに近年は『アイデンティティが人を殺す』『世界の混乱』など、広大なスケールで中東の現実に深く根差した文明論や、国際情勢への犀利な洞察を発表し続けています。今日のアラブ系文化人を代表する一人と言えましょう。しかしながら、これまで日本の中東学界との交流は乏しく、その思想の背景などについて本格的に披歴してもらう機会はありませんでした。そこで、今回は公開で対話の場を設け、中東への眼差し、中東を書くことの意味、アイデンティティ、彼の一族の歴史的背景、ワタン、グローバリゼーション、今日の世界の在り方など、縦横に語ってもらう予定です。また、それに際して、マアルーフ氏の 2 作品を翻訳し、自身も作家にしてポスト・コロニアル文学・世界文学の著名な研究者である小野正嗣さんに加わっていただき、さらに岡真理会員、黒木英充会員からもコメントをいただきます。

対話者

アミン・マアルーフ (作家)、小野正嗣 (作家・早稲田大学)、大稔哲也 (モデレーター：早稲田大学)、岡真理 (コメント：京都大学)、黒木英充 (コメント：東京外国語大学 AA 研)、アレックス・マレット (挨拶：早稲田大学カタール・チェア)

主催

日本中東学会

共催

早稲田大学カタール・チェア (Chair of the State of Qatar for Islamic Area Studies)
早稲田大学総合人文学研究センター
早稲田大学文学部・文学研究科中東・イスラーム研究コース

第2日目：2022年5月15日(日) ※対面とZoomのハイフレックス

10:20～14:30 企画セッション

9:30～11:50／13:00～17:00 個人研究発表

※氏名の右側の()内は所属。Jは大学院生を指す。

【企画セッション】

10:20～11:50 ‘Gender, social change, and politics in the Arab states of the Gulf’

Panel Chair: Abdullah Baabood (Waseda University)

Speakers:

Namie Tsujigami (Sophia University), ‘Do Consumption and Entrepreneurship Change Gender Order in Saudi Arabia?’

Manami Goto (JSPS; New York University Abu Dhabi), ‘Social Changes on the Abaya: The Study of Qatari Women’

Woohyang (Chloe) Sim (Waseda University), ‘The reversal of the gender gap in Qatari higher education’

Respondent and Panel Organizer: Matthew Gray (Waseda University)

13:00～14:30 「社会変容と儀礼の再構成：現代イランの追悼儀礼から」

司会：椿原敦子 (龍谷大学)

発表者：

黒田賢治 (国立民族博物館) 「追悼儀礼へのビジュアル・アプローチへの可能性：『フレイムのなかの事件』を手がかりに」

谷憲一 (上智大学) 「国家および宗教権威による儀礼の包摂と排除：現代イランの事例から」

椿原敦子 (龍谷大学) 「フィクションとしての追悼儀礼」

コメンテーター：未定

【個人研究発表】

第1部会（オンラインのみ）

- 10:20～11:00 Dana Alnafouri (University of Tsukuba, J), 'Wall paintings from ancient Syria'
- 11:10～11:50 兼定愛 (同志社大学 2022 年 4 月～) 「クルアーンに見る悲しみへの対応：「ラー・タフザン」という章句についての伝統的スンナ派啓典解釈書の分析を通して」
- 13:00～13:40 アルモーメン・アブドーラ (東海大学) 「宗教言語と翻訳ストラテジーに見る意味等価とその妥当性：クルアーンの「雌牛章 (アル＝バカラ)」を参照して」
- 13:50～14:30 竹田敏之 (立命館大学 2022 年 4 月～) 「現代アラブ詩における韻律学の伝統と革新」
- 14:40～15:20 榮谷温子 (慶應義塾大学) 「アラビア語文法学における「種(jins)」の概念と「一般」の用語の関連」
- 15:30～16:10 村上武則 (東京外国語大学 2022 年 4 月～) 「クルド文学史の文学史」

第2部会（オンラインのみ）

- 10:20～11:00 井堂有子 (日本国際問題研究所) 「エジプトの小麦政策とスーダンのゲズィーラ灌漑計画：ナショナルな食の安全保障をめぐるナイル渓谷の攻防」
- 11:10～11:50 小林周 (学会員) 「2021 年リビア国政選挙の分析：なぜ選挙は計画され、延期されたのか」
- 13:00～13:40 柳沢崇文 (日本エネルギー経済研究所) 「脱炭素化の潮流と湾岸協力理事会 (GCC) 諸国の動向」
- 13:50～14:30 ハディ・ハーニ (東京理科大学 2022 年 4 月～) 「アブラハム合意における権力と抑圧：批判的ディスコース分析の観点から」
- 14:40～15:20 岡野内正 (法政大学) 「トルコからのジェンダー難民によるイスラーム社会で最初の武装ジェンダー革命としてのロジャヴァ革命」
- 15:30～16:10 Keiko Sakai (Chiba University), 'How do geo-historical factors affect political preference: the case of Baghdad constituency in Iraqi parliamentary election in 2021'

第3部会（オンラインのみ）

- 10:20～11:00 松田和憲 (京都大学) 「パキスタンにおけるラッパイク運動の結成と冒涇法」
- 11:10～11:50 岩倉洸 (京都大学) 「アゼルバイジャンにおける国家による宗教管理の行方：2021 年「信教の自由法」の改正を巡って」
- 13:00～13:40 黒田彩加 (立命館大学) 「「シャリーアと国家」をめぐる現代思潮とイスラーム改革：ハーリド・アブルファドルの政治思想の分析から」
- 13:50～14:30 桐原翠 (日本学術振興会) 「現代イスラーム世界におけるハラール：

イスラーム法学派による食事規定とハラール食品の取り扱い」

14:40～15:20 足立真理（日本学術振興会）「現代インドネシアにおけるザカートの再構築：イスラームにおける制度化、デジタル化、新自由主義による影響をめぐって」

15:30～16:10 小島宏（早稲田大学）「英国のムスリム若者における宗教関連行動と健康」

第4部会（オンラインのみ）

9:30～10:10 望月葵（立命館大学）「欧州の移民・難民コミュニティの存立基盤とシリア難民問題」

10:20～11:00 鈴木慶孝（日本学術振興会 2022年4月～）「トルコにおける移民・難民の地位と権利に関する一考察：条件付き難民を中心として」

11:10～11:50 Ziad Alahmad (Tokyo University of Foreign Studies), ‘Temporary protection as a temporary solution: How Syrians see Turkey’s protection system after a decade of displacement’

13:00～13:40 熊倉和歌子（東京外国語大学）「マムルーク朝時代エジプトのアラブ部族と灌漑の維持管理」

13:50～14:30 小澤一郎（立命館大学）「19・20世紀転換期のマクラーンにおける交易・交流：バルーチ人社会とアフガン人の武器交易活動」

14:40～15:20 福永浩一（上智大学）「近代イスラーム改革思想に見られるスーフイズム概念を巡る一考察」

15:30～16:10 篠田知暁（東京外国語大学）「15～16世紀グマールラ山地の知識人ネットワーク形成」

第5部会（ハイフレックス：対面とオンライン）

9:30～10:10 Nicholas Mangialardi (Williams College), ‘“A Warm Eastern Sound”: Listening to Arab Travelers in Modern Japan’

10:20～11:50 企画セッション ‘Gender, social change, and politics in the Arab states of the Gulf’

13:00～13:40 Yuki Sawaguchi (University of Tokyo, J), ‘The Impacts of Marginal Status for Women Soldiers in the Israeli Military’

13:50～14:30 クレシ・サラ好美（慶應義塾大学 J）「日本に暮らすムスリム第二世代：当事者の語りから見える葛藤の様相」

14:40～15:20 中西萌（京都大学 J）「不確実性が生み出すシリア難民の経済的生存戦略：日本在住者を事例として」

15:30～16:10 野中葉（慶應義塾大学）「在日インドネシア人ムスリムとモスク建設」

16:20～17:00 近藤久美子（大阪大学）「日本人学習者へのアラビア語教育：コミュニケーション・ラーニングをめぐって」

第6部会 (ハイフレックス：対面とオンライン)

- 9:30～10:10 中村友紀 (筑波大学 J) 「西岸地区における紛争がパレスチナ人農家の営農に及ぼす影響の定量的分析」
- 10:20～11:00 鶴見太郎 (東京大学) 「記憶の持ち越し：シオニズムにおける東欧でのポグロムとパレスチナでの暴力」
- 11:10～11:50 岡真理 (京都大学) 「中東現代文学におけるワタンと郷愁」
- 13:00～14:30 企画セッション「社会変容と儀礼の再構成：現代イランの追悼儀礼から」
- 14:40～15:20 千葉悠志 (公立小松大学) 「中東諸国における情報部門の民営化とその政治的意味：エジプトの事例を中心に」
- 15:30～16:10 米田優作 (立命館大学 J) 「現代エジプト政治におけるサラフィー主義組織の思想と活動：ダアワ・サラフィーヤとヌール党を事例に」
- 16:20～17:00 岡室美恵子 (星城大学)・染矢将和 (名古屋大学) 「COVID-19 のエジプト経済への影響」

第7部会 (ハイフレックス：対面とオンライン)

- 9:30～10:10 濱田聖子 (東京大学) 「ジャーヒズにおける自然・理性・意志・選択：倫理的な作品への応用」
- 10:20～11:00 中野さやか (早稲田大学) 「タバリーの美しくつなげられた歴史：アブドルマリク・ブン・サーリフの伝記の比較を中心に」
- 11:10～11:50 荒井悠太 (早稲田大学 J) 「『民族史』としての『イバルの書』：前近代アラビア語史書への構造的分析」
- 13:00～13:40 池端露子 (立命館大学) 「急速に変容する現代社会とイスラーム：集団的イジュティハードによる法解釈の展開」
- 13:50～14:30 竹村和朗 (高千穂大学) 「離婚 裁判所の行方：エジプトの2021年身分法改正論議から」
- 14:40～15:20 早矢仕悠太 (東京大学 J) 「マーリク派法学における死地観念の形成と都市／村落空間の法規定」
- 15:30～16:10 後藤絵美 (東京外国語大学) 「クルアーンとジェンダー平等：ナスル・ハーミド・アブー＝ザイドの議論の論理と可能性」

(第38回年次大会実行委員会)

『日本中東学会 (AJAMES)』編集委員会報告

『日本中東学会年報 (AJAMES)』の刊行・投稿について

1. 38-1号 現在編集中

- ただいま、38-1号の刊行を目指して編集作業を鋭意進めております。論文3本、英文博士論文要旨3本を掲載できる見込みです。

2. 38-2号 投稿締切

- 38-2号の投稿締め切りは6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。
- 新規にアドレスを開設したためか、編集委員長からのメールが届かない、もしくは編集委員長メール・アドレス宛に送信したのに返信がない、等の通信トラブルが多発しております。お手数ですが、その場合はまず、迷惑メールフォルダ等をご確認頂いた上で、編集委員長の大学メール・アドレス (aikon0213[a]keio.jp——[at]は@に読みかえて下さい) 宛に再送頂ければ幸いです。

3. 博士論文要旨

- AJAMES では、会員による中東関連の博士論文要旨 (英文) を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。
- お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

4. バックナンバーと目次の掲載

- AJAMES のバックナンバーについては、ほとんどが科学技術振興機構の電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage 上で公開されています (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>)。
- ただし刊行から1年以内のものについては公開されていないため、目次を日本中東学会のホームページ上に掲載して頂くことになりました (http://www.james1985.org/modules/publications/index.php?content_id=6)。ご活用頂ければさいわいです。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒108-8345 東京都港区三田2丁目15番45号
慶應義塾大学 研究室棟 604B 錦田愛子研究室気付
『日本中東学会年報』編集委員会
E-mail: ajames-editor@james1985.org

(錦田愛子 AJAMES 編集委員長)

GEAHSS 運営会議および地域研究学会連絡協議会総会に関する報告

2021年9月18日(土)、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)の第2回(通算第8回)運営会議がオンラインにて開催された。第5期(2021年10

月1日～2022年9月30日)には加盟学協会数が69になること(うち1学協会がオブザーバー)、第4期の会計監査と活動内容について報告があった後、グッド・プラクティス基本構想(案)について審議がおこなわれ、投票の結果承認された。続いて役員会よりGEAHSS第5期の委員長として吉原雅子氏(日本哲学会)、副委員長として伊藤公雄氏(日本社会学会)が推薦され、投票の結果承認され、規約に基づいて委員長が所属する日本哲学会が幹事学協会、副委員長が所属する日本社会学会が副幹事学協会となることも承認された。会計監事については役員会より椎野若菜氏(日本文化人類学会)、大島郁葉氏(日本認知・行動療法学会)が推薦され、投票の結果承認された。第5期の予算案と活動計画については宇井事務局長、青野委員長より説明があり、審議の結果異議なく承認された。

2021年12月25日(土)には地域研究学会連絡協議会(JCASA)の2021年度年次総会がオンラインにて行われた。まずは事業報告と会計報告について深山事務局長より説明があり、審議の結果承認された。続いて北ヨーロッパ学会の新規加盟についても説明があり、本件についても異議なく承認された。報告事項としては、2022-23年度の事務局、事務局長がそれぞれロシア・東欧学会、小森宏美氏(ロシア・東欧学会)に移行することについて説明がなされ、日本学術会議地域研究委員会の小長谷委員長からは日本学術会議における「提言」の発出に関して現状説明があった。

(菊地達也 渉外担当理事)

寄贈図書

【単行本】

デイヴィッド・アブラフィア(著)高山博(監訳)佐藤昇・藤崎衛・田瀬望(訳)『地中海と人間：原始・古代から現代まで I 原始・古代から14世紀』藤原書店、2021年

デイヴィッド・アブラフィア(著)高山博(監訳)佐藤昇・藤崎衛・田瀬望(訳)『地中海と人間：原始・古代から現代まで II 14世紀から現代』藤原書店、2021年
渡邊駿(著)『現代アラブ君主制の支配ネットワークと資源分配：非産油国ヨルダンの模索』ナカニシヤ出版、2022年

今井宏平(編)『クルド問題：非国家主体の可能性と限界』岩波書店、2022年

原隆一・南里浩子(編)『大野盛雄 フィールドワークの軌跡 III：イラン革命のフィールドワーク 1975～1987年』大東文化大学 東洋研究所、2022年

李眞恵(著)『二つのアジアを生きる：現代カザフスタンにおける民族問題と高麗人(コリョ・サラム) ディアスポラの文化変容』ナカニシヤ出版、2022年

A.C.S. Peacock and Sara Nur Yıldız (Eds.), *Literature and Intellectual Life in 14th-15th Century Anatolia*. Würzburg: Orient-Institut Istanbul, 2016.

- Karin Schweißgut, *Das Armutssujet in der türkischen Literatur des 20. Jahrhunderts*. Würzburg: Orient-Institut Istanbul, 2016.
- Ulaş Özdemir, Wendelmoet Hamelink, and Martin Greve (Eds.), *Diversity and Contact among Singer-Poet Traditions in Eastern Anatolia*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2018.
- Antje Zborowski. Griechisch, Osmanisch, *Modern – Spätosmanische Identitäten. Der Griechisch Philologische Verein in Konstantinopel 1861–1911/12*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2019.
- Martin Greve, Ulaş Özdemir, and Raoul Motika (eds.), *Aesthetic and Performative Dimensions of Alevi Cultural Heritage*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2020.
- Mehmet Beşikçi, Selçuk Akşin Somel, and Alexandre Toumarkine (eds.), *Not All Quiet on the Ottoman Fronts: Neglected Perspectives on a Global War, 1914-1918*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2020.
- Henning Sievert, *Tripolitanien und Bengasi um 1900*. Wissen, Vermittlung und politische Kommunikation. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2020.
- Evangelia Balta (ed.), *Registering Life in a Multicultural City: Late Ottoman Nicosia. Supplementum 1. Greek and Ottoman Fiscal Registers (1825-1833)*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2022.
- Evangelia Balta (ed.), *Registering Life in a Multicultural City: Late Ottoman Nicosia. Supplementum 2. Ottoman Censuses (1839-1877)*. Baden-Baden: Orient-Institut Istanbul, 2022.

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

- 『アラブ・イスラム研究』第19号、関西アラブ研究会、2021年8月
Perceptions: Journal of International Affairs, Volume XXI, Number 2, Center for Strategic Research (Stratejik Araştırmalar Merkezi (SAM)), Summer 2016.
- Perceptions: Journal of International Affairs*, Volume XXI, Number 3-4, Center for Strategic Research (Stratejik Araştırmalar Merkezi (SAM)), Winter 2016.
- Perceptions: Journal of International Affairs*, Volume XXII, Number 1, Center for Strategic Research (Stratejik Araştırmalar Merkezi (SAM)), Spring 2017.

会員の異動

【新規会員】

原 陸郎	京都大学大学院
クレシ サラ好美	慶應義塾大学
中西 萌	京都大学大学院
中村 友紀	筑波大学
坂下 直史	森永製菓株式会社

Dana Alnafouri

筑波大学

Nicholas Mangialardi

本田 圭

Embassy of Japan in the United Arab Emirates

荒木 裕太

早稲田大学

Wafayezada Mohammad Qasim

金沢大学

澤 裕章

事務局より

前事務局から学会業務を引き継ぎ、一年が経ちます。この間、新型コロナウイルスの感染状況はあまり落ち着かず、多くの学会や研究会、大学の授業などがオンラインで継続されました。学会会員の皆さまのなかにも、久しく顔を合わせていなかったり、対面でのコミュニケーションがとれなかったりした研究仲間が多くいるかと存じます。2022年度の日本中東学会第38回年次大会（5月14日・15日）は、ハイフレックス形式での実施を予定しています。会場となる早稲田大学で、多くの皆さまにお目にかかれることを楽しみにしています。

事務局は引き続きリモートワーク体制をとっているため、郵便物の確認にはお時間を頂いております。また各種お問い合わせについては、学会ウェブサイト「事務局案内」(http://www.james1985.org/modules/about/index.php?content_id=8)をご覧ください。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

(堀抜功二 事務局長)

編集後記

ニューズレター・書記担当理事を拝命し3号目となるNLの編集も無事終わることができました。コロナ禍に加えて、ウクライナ情勢の緊迫化により、研究環境は悪化するばかりですが、めげずに頑張っていきましょう。

(青山弘之 ニューズレター・書記担当理事)

日本中東学会ニューズレター 第 165 号
発行日 2022 年 3 月 31 日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒104-0054
東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カ
チドキ 10 階
（一財）日本エネルギー経済研究所 中東研
究センター内
E-mail: james@james1985.org
<http://www.james1985.org/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)